

南西諸島のアリヅカムシ概観

(付・ハセガワモモブトアリヅカムシの新分布記録)

野村周平

国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.go.jp)

A Faunistic Review of Pselaphine Species Known from Nansei Islands, SW Japan, with New Distributional Records of *Physomerinus hasegawai* Nomura, 1991

Shûhei NOMURA

1. 緒言

南西諸島、琉球列島あるいは沖縄の昆虫インベントリーといえば、まず最初に「沖縄産昆虫目録」(東・金城, 1987, 以下「沖縄目録」)が挙げられるであろう。しかしこのリストにはアリヅカムシは1種も記載されていない。なぜならこの頃沖縄からはアリヅカムシはまったく知られていなかったからである(ただし前年にNomura, 1986が2新種を記載している)。それまでに南西諸島から知られていたアリヅカムシは筆者が知る限り、*Pselaphogenius lanceolatus* K. Sawada, 1969 アマミヒゲナガアリヅカムシ(これは奄美のみに分布なので「沖縄目録」には含まれない)のみであった。

しかし2002年に編纂された「琉球列島産昆虫目録」(東監修, 2002, 以下「琉球目録」)では、30種のアリヅカムシがリストアップされた。「沖縄目録」から「琉球目録」までの15年間にアリヅカムシの新種記載や分布記録がいかに蓄積されてきたかがわかる。

しかし「琉球目録」には屋久島など大隅諸島の記録は含まれておらず、また、さらに10年が経過して、アリヅカムシに関する知見はさらに拡大した。琉球列島には未だ十分には知られていない豊かな昆虫ファウナが眠っていることは周知の事実である。しかしそのさらなる解明を進めるためにも、既知の知見を固めておくことは重要であると考えた。加えてハセガワモモブトアリヅカムシの南西諸島における新分布記録を新たに加えておく。

2. 南西諸島でアリヅカムシが生息する環境

南西諸島は大小さまざまなサイズの島々の連なりであり、その島のアリヅカムシ相は単一の島のサイズばかりではなく、標高や、隣接する島との距離、隣接する島のサイズなどにも大きく影響される。さらに加えて、琉球列島を含む南西諸島の

特色として、中国大陸あるいは日本本土と陸続きになったり断絶したりした地史的な経緯が、南西諸島の動物相、昆虫相を格段に複雑にしている。

したがって、南西諸島のどのようなところにアリヅカムシが多く生息し-多様度が高いか、ということは、一概には説明しがたい。しかし一般的理解として、どの島でも長い間保存された古い自然林にはアリヅカムシが多い。南西諸島の自然植生はスダジイやイスノキを主体とした照葉樹林であって、屋久島の山頂部を除き、一年中雪が積もることはない。自然植生が長く保たれ、人為によって攪乱されていない森林の落葉中には、一般に多種類のアリヅカムシが生息する。

日本本土とは異なり、南西諸島の森林では、スギ・ヒノキの植林に変えられているのは、屋久島や種子島などのごく一部であって、よい状態の照葉樹林が低標高地に広がっている様子をしばしば観察できる(図1Aなど)。しかしやはり、人里に隣接している部分では人為の影響は避けがたく、皆伐植林はなくとも、燃料への利用や家畜の侵入によって、乾燥化や外来生物の繁殖を許している部分も多く、そのような場所にはアリヅカムシの種数は一般に少ない。

一見非常に人為の影響の少ない森林のように見えても、よく目をこらしてみると、リュウキュウマツやモクマオウのような針葉樹の侵食が進行している場合があるので注意しなければならない。林内に入ってみると下生えの植物相が薄く単純で、地表の乾燥化が著しく落葉の蓄積が乏しいため、アリヅカムシは少ない。このような環境は奄美大島や沖縄島のかなり山奥に入ったところにも見られるので、意識して場所を選ぶ必要がある。

これまでに珍しい種あるいは固有種が得られているのは、多くは上に記したような古い照葉樹林であって、現地の環境を図1B~D, Fに示した。



図1. アリヅカムシが生息する環境（以下、和名語尾の「～アリヅカムシ」を省略）．A：屋久島安房付近の森林外観；B：奄美大島湯湾岳の登山道（コバネヒゲトのタイプ産地）；C：沖縄島伊江林道近傍（オオウロコのタイプ産地）；D：石垣島オモト岳登山口付近（オモトモノケのタイプ産地）；E：西表島千立の湿地（チビマルなどが生息）；F：与那国島久部良岳の林内。

しかし採集時には非常によい環境であってもその後、著しい攪乱や開発にさらされることがある。図1Cは、沖縄島伊江林道近傍のオオウロコアリヅカムシのタイプ産地であるが、その後林道の開削によってうっそうとした森林は切り払われ、すっかり開けてしまって乾燥化が進み、この場所で同種を得ることは非常に難しくなった。

アリヅカムシが多く生息するのは森林ばかりではない。野村（2010）に示したように、干潮時に岩礁が現れるような海岸にはサンゴ、アマミイソ、汽水域のマングローブにはアシベが多産することがある。また、図1Eのような休耕田あるいは牧草地のような場所ではチビマルやハセガワモモトなどが産する。このようにだだっ広くてポイントの絞りにくい環境では灯火採集が有効である。ただし注意し

なければならないのは、以上のようなオープンランドに近い環境に生息する種は移動性が高く、その島の固有種であることはほとんどない。

3. 南西諸島からのハセガワモモトアリヅカムシの新分布記録

ハセガワモモトアリヅカムシ *Physomerinus hasegawai* Nomura, 1991 は故長谷川仁氏採集の標本に基づき、石垣島から記載された種である。タイプ標本は灯火採集によって採集されたものと考えられる。オスの後脚腿節は顕著に膨大し、外面に大きな分泌器官をそなえるので、近似の他種から明瞭に区別できる。野村（2010）により報じられた石垣島での調査結果によると、ハセガワモモトは近似のシェンクリングモモトと同様、灯火

で普通に得られる。シェンクリングが森林環境で多く得られるのに対し、ハセガワは草原や海岸など開けた日当たりのよい環境を好む。ただし両種ともに灯火に集まるのはオスのみで、メスは後翅が退化して、灯火に飛来することはない。

ハセガワモモブトアリヅカムシはこれまで石垣島のみから記録されているが、筆者の手元には石垣島ばかりではなく、西表島、与那国島および台湾で採集された多数の標本がある。本稿の趣旨の上で重要な情報なので、この場を借りて新分布記録として報告しておきたい。

<採集データ> [西表島] 1♂, 大原, 15. x. 1988, 八尋克郎採集; 4♂, 干立 (灯火), 1. x. 1999, 西田光康採集; 2♂, 同左 (灯火), 17. iii. 2004, 野村周平採集; 10♂, 上原 (灯火), 26. iii. 2002, K. Yamada 採集; 4♂, 大富, 10. vi. 2002, 渡辺崇採集. [与那国島] 1♂, 祖納, 5. v. 1979, Y. Kurosa 採集; 1♂, 宇良部岳, 24. iii. 1991, 奥島雄一採集; 1♂, 同左 (灯火), 16. iii. 2005, 野村周平採集; 2♂, 比川, 4. iv. 1991, 中村剛之採集; 1♂, 同左, 8. iv. 1991, 紙谷聡志採集; 3♂, アンガイミドウチ (落葉ふるい), 19. iii. 2005, 野村周平採集. [台湾] 1♂, 竹崎 (現 Chuchi, Chai Hsien), 22. v. 1941, Y. Yano 採集.

4. 南西諸島各島から記録されたアリヅカムシ

以下に、3つの表に分けて、各島 (あるいは諸島) から記録されたアリヅカムシの種名を列記する。種名不明種または未記載種の分布記録は除外する。表中○で示したものは「琉球目録」に搭載された種である。表中の番号は南西諸島からの記録の出典であり、註6に文献データを示した (初出とは限らない)。本稿の前章で新たに報告されたハセガワモモブトアリヅカムシの記録は●で示した。またその島の固有種である場合には右側に*印を付した。なお種和名においては語尾の「~アリヅカムシ」は省略した。島ごとの合計種数の欄では括弧内に、その島だけに産する固有種数を示した。

5. 南西諸島から記録されたアリヅカムシの種名一覧

以下に南西諸島から記録されたアリヅカムシの学名和名を分類順に列記する。単一の島のみから知られる固有種には*, 南西諸島固有種には*の記号を種名の末尾に付した。

Staphylinidae ハネカクシ科

Pselaphinae アリヅカムシ亜科

Batrisitae ムネトゲアリヅカムシ上族

Batrisodes (Excavodes) sennin Nomura, 2007 センニン

トゲアリヅカムシ (図3A, 4A) **

Maajappia omotonis Nomura, 2010 オモトモノノケアリヅカムシ (図3B) **

Tribasodes longipes Jeannel, 1958 ドウボソムネトゲアリヅカムシ (図2A)

T. kamedai Nomura, 2012 クラホソムネトゲアリヅカムシ**

Tribasodites picticornis Nomura, 1986 カザリムネトゲアリヅカムシ*

Batrisoplilus raffrayi Jeannel, 1958 ラフレイフサヒゲアリヅカムシ

B. esakii Nomura, 1991 エサキフサヒゲアリヅカムシ

B. amamianus Nomura, 1991 アマミフサヒゲアリヅカムシ**

B. volcaninsulanus Nomura, 1991 クチノエラブメダカアリヅカムシ (和名新称) **

B. parallelus Nomura, 1991 ヤクメダカアリヅカムシ (和名新称) **

B. constrictus Nomura, 1991 クビレメダカアリヅカムシ**

B. monostatos Nomura, 1991 オキナワメダカアリヅカムシ (図3C) *

B. tamino Nomura, 1991 タミノメダカアリヅカムシ*

B. torticornis Nomura, 1991 ネジレヒゲメダカアリヅカムシ (図2C) *

Batriscenellus (Scaioscenellus) insulicola Nomura, 1991 シマツヤアリヅカムシ**

B. (S.) sakaii Nomura, 1991 サカイツヤアリヅカムシ (図4B) **

Babascenellus macroscapus Nomura, 1995 ババツノヒゲアリヅカムシ*

Batriscenaulax kunigamensis Nomura, 1991 クニガミハケスネアリヅカムシ**

B. nagensis Nomura, 1991 ナゴハケスネアリヅカムシ**

B. kleinzach Nomura, 1991 ムネビロハケスネアリヅカムシ*

Physomerinus predator (Sharp, 1883) モモコブアリヅカムシ

P. schenklingi (Raffray, 1912) シェンクリングモモブトアリヅカムシ (図3D)

P. hasegawai Nomura, 1991 ハセガワモモブトアリヅカムシ (図3E) *

Arthromelodes giganteus Nomura, 1991 オオヒサゴアリヅカムシ*

A. punctatus Nomura, 1991 アマミヒサゴアリヅカムシ*

A. crucifer Nomura, 1991 ヤクヒサゴアリヅカムシ

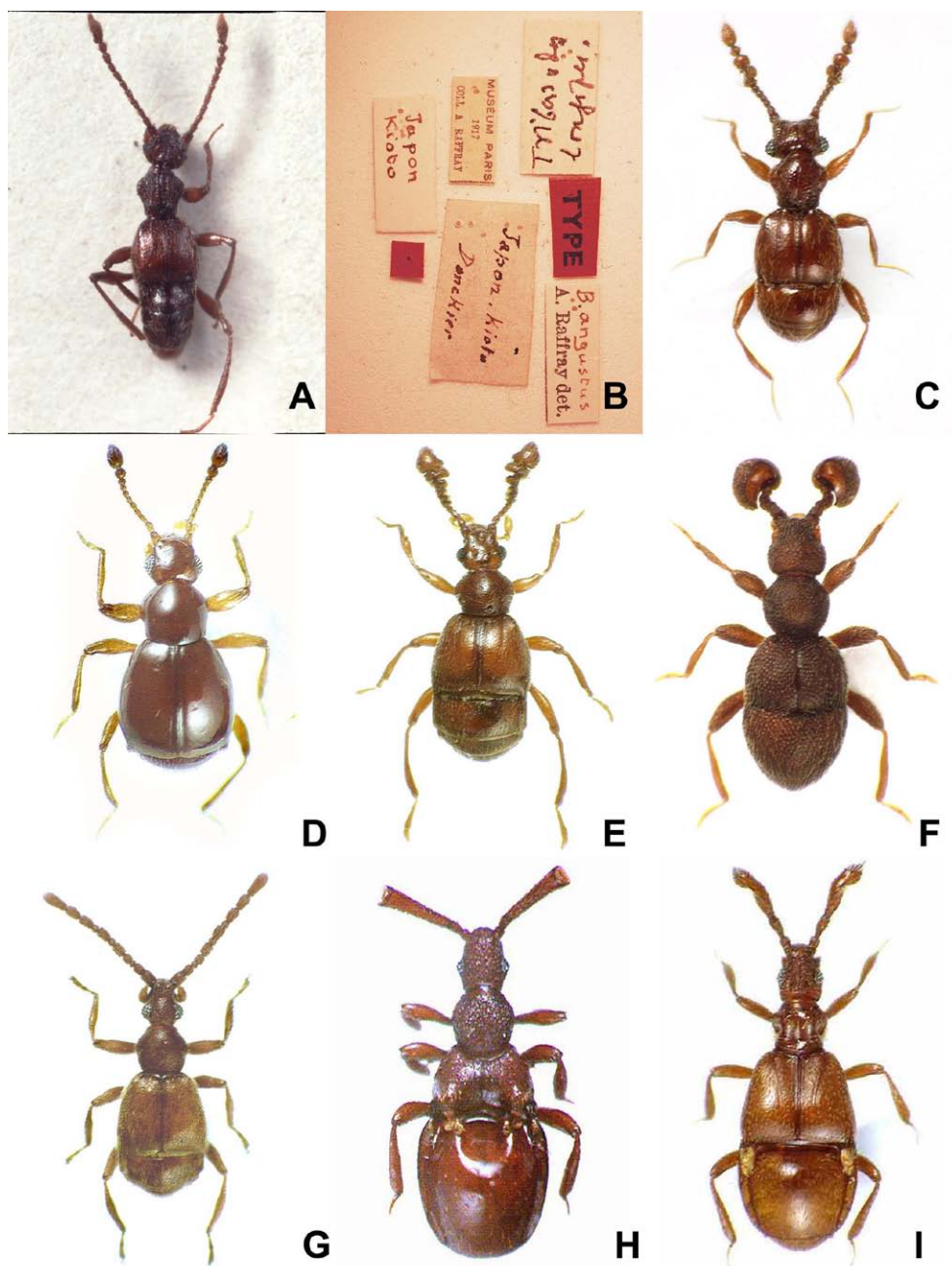


図2. 南西諸島に産するアリヅカムシ1. A: ドウボソムネトゲのホロタイプ (パリ自博蔵); B: 同左のタイプラベル ("Kioto"産とされるDonckier標本); C: ネジレヒゲメダカ (石垣島産); D: チビマル (石垣島産); E: タイワンヒゲトエンマ (トカラ宝島産); F: ヤエヤマダルマ (石垣島産); G: カギアシ (石垣島産); H: オキナワコバナヒゲト (沖縄島産); I: ネジレヒゲト (マレーシア産).

(和名新称) **

- Goniaceritae オノヒゲアリヅカムシ上族
- Morana discedens* (Sharp, 1874) マメアリヅカムシ
- M. lata* Arai, 2003 ヒロマメアリヅカムシ
- M. crassicostata* Arai, 2003 アマミマメアリヅカムシ*

- M. bara* Tanabe et Nakane, 1990 ヤクシママメアリヅカムシ*
- M. maruyamai* Arai, 2003 タバゲマメアリヅカムシ**
- M. deigo* Arai, 2003 オキナワマメアリヅカムシ**
- M. kazuyoeae* Arai, 2003 カズヨマメアリヅカムシ**
- M. angustata* Arai, 2003 サツナンマメアリヅカムシ*

表1. 南西諸島各島から記録されたアリヅカムシー一覧.

種名\島名	屋久島	種子島	黒島	口永	トカラ	奄美大	徳之島	沖永	沖縄島	宮古島	石垣島	西表島	波照間	与那国	その他
センニトゲ															13*
オモトモノノケ											14*				
ドウボソムネトゲ(註1)	7		(註1)												本州?
クラホソムネトゲ									16*						
カザリムネトゲ									○			○			
ラフレイフサヒゲ	9														北,本,四,九,対馬 九
エサキフサヒゲ			7												
アマミフサヒゲ						○*									
クチノエラブメダカ				9*											
ヤクメダカ	9*														
クビレメダカ						○*									
オキナワメダカ								○	○						
タミノメダカ									○*						
ネジレヒゲメダカ											○	○			
シマツヤ								○*							
サカイツヤ									○*						
ババツノヒゲ										○	○	○	○	○	
クニガミハクスネ									○*						
ナゴハクスネ									○*						
ムネビロハクスネ											○	○			
モモコブ	9														本,九 台湾(註4)
シェンクリングモモト											○	○			● 台湾
ハセガワモモト											○	●			● 台湾
オオヒサゴ						○	○								
アマミヒサゴ						○*									
ヤクヒサゴ	9*														
マメ		1	7												本,四,九 九
ヒロマメ	1														
アマミマメ					1宝	1									
ヤクシママメ	21	21	21	21											
タバゲマメ					1中*										
オキナワマメ									1*						
カズヨマメ									1*						
サツナンマメ						1	1								
ヤエヤママメ											1	1			
ヨナグニマメ															1*
アマミテング						4*									
オキナワテング									4*						
ヤマテング									4*						
ヤエヤマテング											4	4		4	
コザマルムネ									○*						
オキナワマルムネ									○*						
ツヤアトキリ							○		○						朝鮮半島 東南アジア
チビマル											12	12			本,四,九,台湾 カルカッタ
タイワンヒゲトエンマ					11宝				11						2
リュウキュウヒゲトエン									6						日本本土,台湾,ベトナム
アシベ							5		5		15	5			
アマミノ(註2)							○		3		3	17			3
サンゴ(註5)											○	○			
イリオモテオノヒゲ												○*			
トクノシマモリ							○*								
フジヤマダルマ						10(註3)			8		10(註3)				本,四,九
ヤエヤマダルマ(註6)											○	20			
アマミヒゲナガ							○*								
カギアシ											○	19		19	台湾
オオウロコ									○*						
コバネヒゲト		○					○								
オキナワコバネヒゲト									○*						
ネジレヒゲト						18									台湾他
種数	8(2)	2(0)	3(0)	3(1)	3(1)	12(5)	4(1)	2(1)	21(13)	1(0)	15(1)	16(1)	1(0)	8(2)	

註1: 江平・小野田(1996)は黒島から本種を報告しているが、このときに小野田氏から預かった標本を再検査したところ、屋久島などから知られるドウボソムネトゲ(図2A)とは形態が一致せず、別種(恐らく未記載種)とすべきものと思われる。ちなみに真のドウボソムネトゲは、野村(2007)にあるように、バリ自然史博物館に所蔵されるRaffrayコレクション中のDonckier de Donceel氏から入手されたとある標本を元にJeannelが記載した(図2B参照)。本種のタイプ産地は京都とされているが、本州からはまったく再確認されていない。その一方で野村の手元には、確実に屋久島で採集された複数の標本がある。

註2: 琉球目録での学名は*Thalassomerus miyakei* K. Sawada. 野村(2010)も見よ。

註3: 奄美大島と石垣島の記録は琉球目録に掲載されるべきであったが落ちていた。

註4: 北海道の分布(琉球目録など)は恐らく誤り。台湾唾口(Akaku)の採集ラベルのものが、阿寒(北海道)と誤読されたとと思われる。*Batrasiella akanensis* Löblも同様。詳しくは野村(2004)を見よ。

註5: 琉球目録での学名は*Halohermatus regulus* K. Sawada. 野村(2010)も見よ。

註6: 琉球目録では、中国浙江省天目山から記載された*Paracyathiger matousheki* Löblとされているが、後に文献27によって琉球産のものは未記載種であるとして、表記の名称で新種記載された。

文献は以下の通り: 1: Arai (2003); 2: Arai and Nomura (2004); 3: 新井志保・野村周平 (2005); 4: Arai and Nomura (2007); 5: 新井ほか (2005); 6: Besuchet (1999); 7: 江平・小野田(1996); 8: Karasawa *et al.* (2008); 9: Nomura (1991); 10: Nomura (1999a); 11: Nomura (1999b); 12: Nomura (2004); 13: Nomura (2007); 14: Nomura (2010); 15: 野村 (2010); 16: Nomura (2012); 17: 野村(2012); 18: Nomura *et al.* (2006); 19: Sugaya and Arai (2003); 20: Sugaya *et al.* (2004); 21: Tanabe and Nakane (1990).

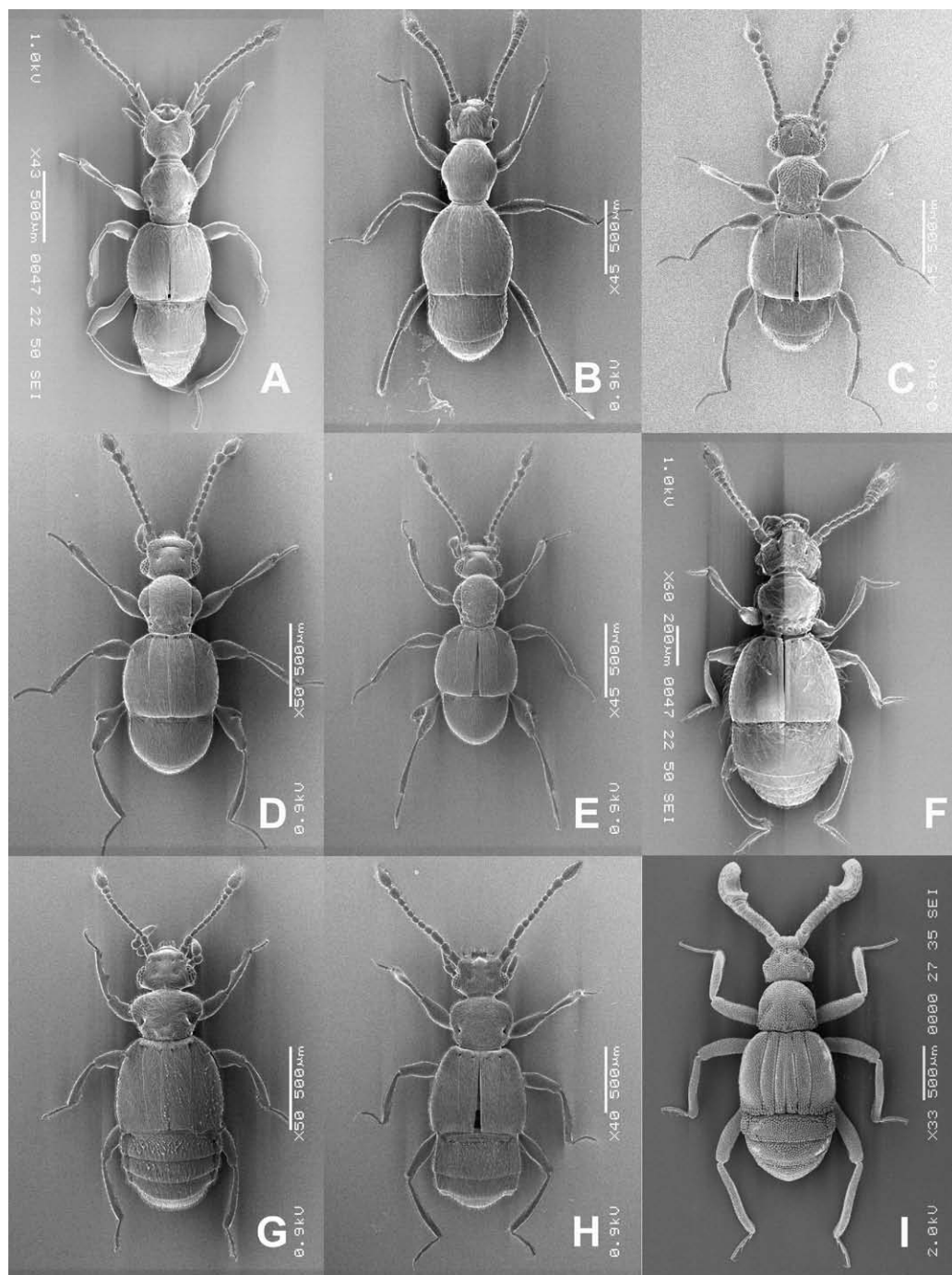


図3. 南西諸島に産するアリヅカムシ2. A: センニトゲ (与那国島産); B: オモトモノノケ (石垣島産); C: オキナワメダカ (沖縄島産); D: シェンクリングモモボト (石垣島産); E: ハセガワモモボト (石垣島産); F: ヤエヤマテンゲ (与那国島産); G: アマミイソ (石垣島産); H: サンゴ (石垣島産); I: オオウロコ (沖縄島産).

M. rhyncocephala Arai, 2003 ヤエヤママメアリヅカムシ*

M. donan Arai, 2003 ヨナグニマメアリヅカムシ**

Tenguobythus rhinoceros Arai et Nomura, 2007 アマミ

テングアリヅカムシ (図 4C) **

T. pentagonus Arai et Nomura, 2007 オキナワテングアリヅカムシ**

T. yama Arai et Nomura, 2007 ヤマテングアリヅカム

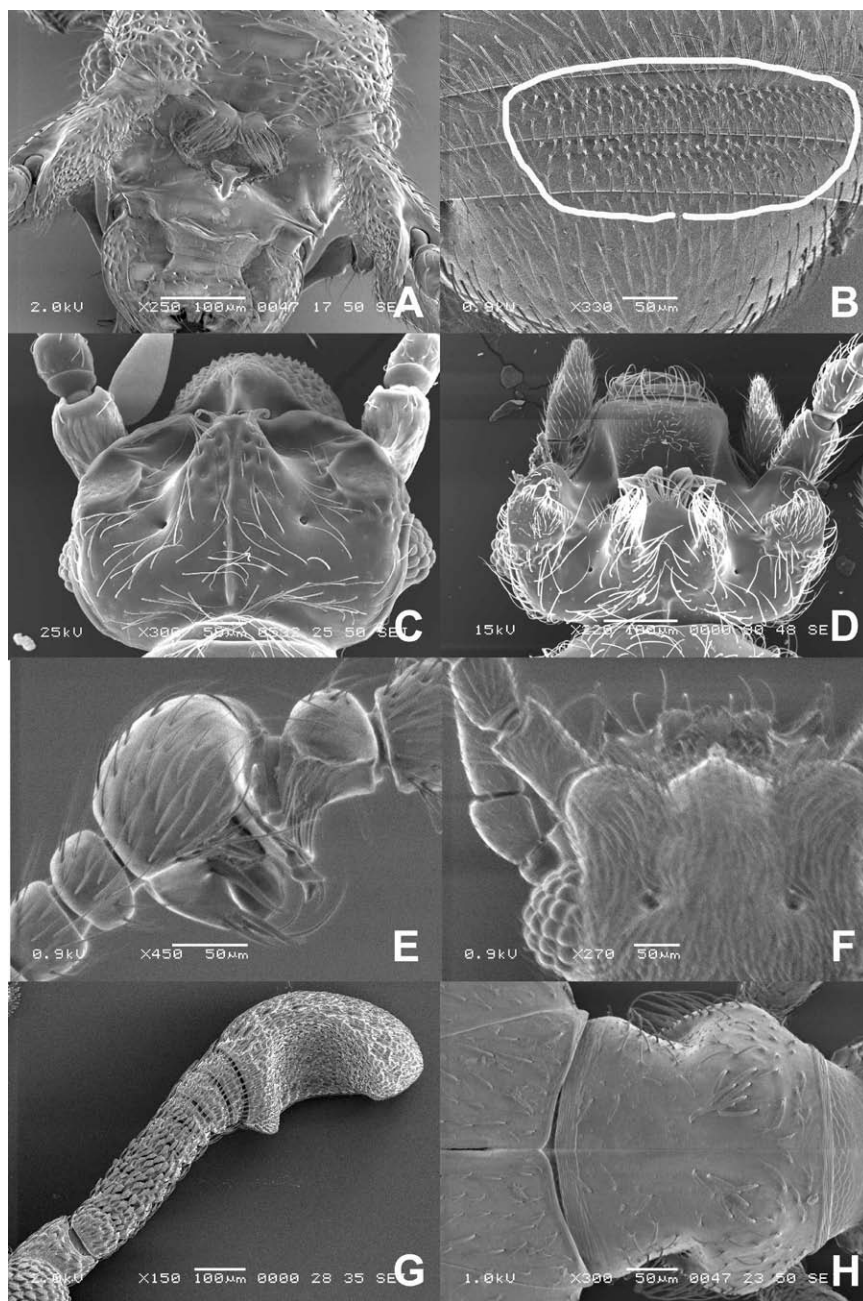


図4. 南西諸島産アリヅカムシの形態詳細。A: センニトゲ♂前頭部; B: サカイツヤ♂第5, 6腹背板(白線圏は性的毛斑); C: アマミテング♂頭部背面; D: ヤマテング♂頭部背面; E: アシベ♂触角第3~7節; F: サンゴ♂頭部背面; G: オオウロコ♂触角; H: ネジレヒゲト♀前胸+上翅基部背面。

シ (図4D) **

T. decoratus Arai et Nomura, 2007 ヤエヤマテングアリヅカムシ (図3F) *

Trimicrus hamifer Löbl, Kurbatov et Nomura, 1998 コザマルムネアリヅカムシ**

T. melini Löbl, Kurbatov et Nomura, 1998 オキナワマ

ルムネアリヅカムシ**

Batrax splendens Nomura, 1986 ツヤアトキリアリヅカムシ

Eupines sphaerica (Motschulsky, 1851) チビマルアリヅカムシ (図2D)

Trissemus implicitus (Raffray, 1912) タイワンヒゲト

- エンマアリヅカムシ (図2E)
T. clavatus (Motschulsky, 1851) リュウキュウヒゲブ
 トエンマアリヅカムシ
Prosthecarthron sauteri Raffray, 1914 アシベアリヅカ
 ムシ (図4E)
Physoplectus miyakei (K. Sawada, 1992) アマミイソア
 リヅカムシ (図3G) *
Pedinops regulus (K. Sawada, 1991) サンゴアリヅカ
 ムシ (図3H, 4F) *
Bryaxis iriomotensis Löbl, Kurbatov et Nomura, 1998イ
 リオモテオノヒゲアリヅカムシ**
Hyugatyachus tokunoshimensis Nomura, 1996トクノシ
 マモリアリヅカムシ**
Plagiophorus fujiyamai (Kubota, 1944) フジヤマダル
 マアリヅカムシ
P. hispidus Sugaya, Nomura et Burckhardt, 2004ヤエヤ
 マダルマアリヅカムシ (図2F) *

- Pselaphitae* ヒゲナガアリヅカムシ上族
Pselaphogenius lanceolatus K. Sawada, 1969 アマミヒ
 ゲナガアリヅカムシ**
Hirashimanyms schistodactyroides Nomura, 1990 カギ
 アシアリヅカムシ (図2G)
Apharinodes papageno Nomura, 1989 オオウロコアリ
 ズカムシ (図3I, 4G) **

- Clavigeritae* ヒゲブトアリヅカムシ上族
Microlytriger mirabilis Nomura, 1997 コバネヒゲブト
 アリヅカムシ*
M. nakatai Nomura, 1997 オキナワコバネヒゲブトア
 リヅカムシ (図2H) **
Anaclasiger sinuaticollis Raffray, 1890 ネジレヒゲブ
 トアリヅカムシ (図2I)

以上 59 種を確認した。単一の島の固有種 (**)
 は 27 種、南西諸島固有種 (*) は 18 種であった。

6. 考察と問題点

南西諸島からは、上に記したように 4 上族 59 種
 のアリヅカムシが記録されている。各島からの記
 録としては、屋久島から 8 種、種子島から 2 種、
 黒島から 3 種、口永良部島から 3 種、トカラ列島
 中之島から 1 種、宝島から 2 種、奄美大島から 12
 種、徳之島から 4 種、沖永良部島から 2 種、沖縄
 島から 21 種、宮古島から 1 種、石垣島から 15 種、
 西表島から 16 種、波照間島から 1 種、与那国島か
 ら 8 種が知られている (図 5)。

しかしながらこれらのデータは、それぞれの島

に何種のアリヅカムシがいるのかという生態学的
 な展望とは異なって、既知種だけを抽出した数字
 である。実際に定性的な調査をすれば、非常に多
 くの未記載種がふくまれており、その比率もまた、
 必ずしも自然的な要因を反映したものではない
 (Karasawa *et al.* (2008) などを見よ)。

その点を踏まえた上で今回判明した数字を検討
 したい。まず、南西諸島のアリヅカムシの固有種
 率は、(単一の島のみから知られる種) + (南西諸
 島のみから知られるその他の種数) / 南西諸島に
 分布する全種数 = (27+18)/59 = 76% である。これ
 は相当に高い数字であると判断できる。単一の島
 のみから知られる固有種の率も、27/59 = 46% で
 これもかなり高い。

しかし一方で、各島における固有種率は、ある
 程度数がそろっている島のみ取り出してみると、
 屋久島で 2/8 = 25%、奄美大島で 5/12 = 42%、石
 垣島で 1/15 = 7%、西表島で 1/16 = 6%、与那国
 島で 2/8 = 25% と低い。唯一沖縄島だけが、13/21
 = 62% と高かった。全体の固有種率が高い一方で、
 各島の固有種率が低いという一見矛盾する現象が
 認められる。この理由についても今後、科学的な
 理由付けが求められる。

いずれにしても、より確実な展望を得るため
 には、いまだ多くの未記載種が残されている南西諸
 島産アリヅカムシ全般の分類学的な解明を進め、
 どれだけのアリヅカムシがいて、どのような名称
 で呼ぶべきだという合意を形作っていく必要がある。
 そのような努力によって、現段階では既知種
 だけの数字であっても、南西諸島に生息している
 アリヅカムシ全体を示す実態の数字に近づいてい
 くと考えられる。

南西諸島に生息しているアリヅカムシのうち
 で、今後解明が進められていくべきグループには
 次のようなものがある。アリヅカムシ亜科は 7 上
 族から構成されるが、日本からは 6 上族が知られ
 ている。南西諸島からまったく記録のない 2 上族
 (シュモク、ナガ) については、日本本土よりも格
 段に種数は少ないが、いくらかの種数は存在する
 ので、日本本土、台湾の種との対比も含めて、解
 明を進めていく必要がある。ムネトゲ上族はかなり
 解明が進んでいる群であり、大幅な追加は期待
 できない。オノヒゲ上族では、*Bryaxis*, *Takaorites*,
Triomicrus, *Trissemus* などの属が解明不十分である。
 ヒゲナガ上族では記録のある属が少ないくらいで、
Pselaphus 関連群、*Pselaphogenius*, *Tmesiphorus* など
 は未解明であり、大きくは Tyrini 族 (3 属ほどを含
 む) が全く手つかずである。ヒゲブト上族は種数

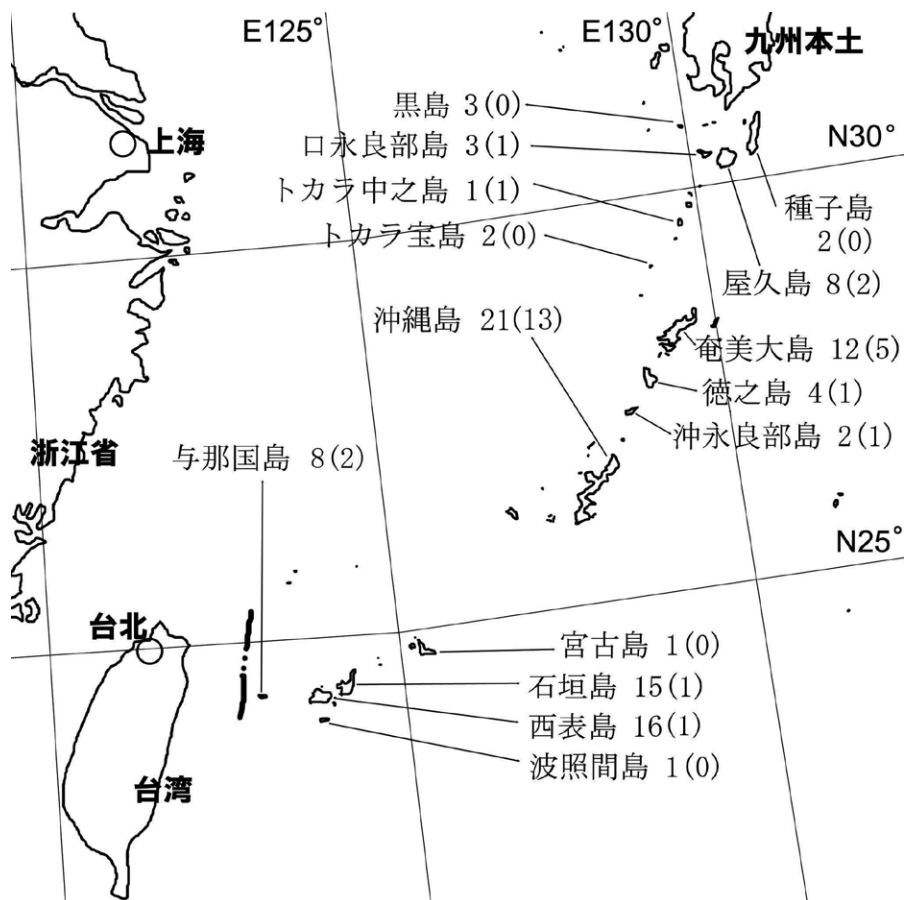


図5. 南西諸島各島の位置と、記録されているアリヅカムシの種数（括弧内はその島の固有種数）。

少なく大幅な追加はないと見込まれる。

南西諸島は近年の尖閣諸島の動向に見られるように、必ずしも国際情勢的に安定した地域ではない。さらに普天間基地移転問題のように国内的な不安定要因もはらんでいる。加えて、これまで保存されてきた自然環境の、都市化による悪化、侵食も決して安心できる状況にはない。したがって、そのような自由な採集、研究を脅かす要因に留意しつつ、解明を進める努力が望まれる。

謝辞

本稿所載の貴重なアリヅカムシ標本を快くご恵与いただいた以下の方々に厚く御礼申し上げる（順不同、敬称略）：黒佐和義，八尋克郎，西田光康，渡辺崇，奥島雄一，中村剛之，紙谷聡志。

引用文献

Arai, S., 2003. A revision of the Japanese species of the genus *Morana* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 9: 187–222.

Arai, S., and S. Nomura, 2004. A new record of *Trissemus clavatus* (Motschulsky) from Yonaguni-jima, the Ryukyus, Japan (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Elytra, Tokyo, 32: 436.

新井志保・野村周平 (2005) 日本産 *Physoplectus* 属 (ハネカクシ科, アリヅカムシ亜科) の分類及び生息環境について. 日本鞘翅学会第 18 回大会講演要旨集 (倉敷市立自然史博物館・倉敷市立美術館), p. 13.

Arai, S. and S. Nomura, 2007. A new genus, *Tenguobythus*, and five new species of the Inioctyphinae subtribe Natypleurina from Japan (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). Entomological Science, 10: 407–419.

新井志保・野村周平・亀澤 洋, 2005. アシベアリヅカムシの日本国内及び琉球列島での記録. 甲虫ニュース, (151): 19–20.

東 清二・金城政勝, 1987. 沖縄産昆虫目録. 沖縄県産生物目録シリーズ 1. 沖縄生物学会, 新星図書出版, 422 pp.

東 清二監修, 屋富祖昌子他編, 2002. 増補改訂 琉球列島産昆虫目録. 沖縄県産生物目録シリーズ 1 増補改訂. 沖縄生物学会, 榕樹書林, 570 pp.

Besuchet, C., 1999. Pselaphides paléarctiques. Notes taxonomiques et faunistiques (Coleoptera Staphylinidae Pselaphinae). Revue de suisse Zoologie, 106: 51.

江平憲治・小野田 繁, 1996. 鹿児島県・黒島の昆虫類. 鹿

- 児島県立博物館研究報告, (15): 39–48.
- Karasawa, S., et al., 2008. Bird's nest ferns as reservoirs of soil arthropod biodiversity in a Japanese subtropical rainforest. *Edaphologia*, (83): 11–30.
- Nomura, S., 1986. Description of two new myrmecophilous species of the family Pselaphidae (Coleoptera) from Japan. *Kontyû*, Tokyo, 54: 498–503.
- Nomura, S., 1991. Systematic study on the genus *Batrisoplisus* and its allied genera from Japan (Coleoptera, Pselaphidae). *Esakia*, Fukuoka, (30): 1–462.
- Nomura, S., 1997. A new clavirine genus, *Micrelytriger* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from Taiwan and Japan. *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Ser. A*, 23: 115–126.
- Nomura, S., 1999a. Notes on the distribution of *Paracyathiger fujiyamai* (Kubota) (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Elytra*, Tokyo, 27: 111–112.
- Nomura, S., 1999b. Notes on the distribution of *Trissemus implicitus* (Raffray) (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Elytra*, Tokyo, 27: 502.
- Nomura, S., 2004. New records of *Eupines sphaerica* (Motschulsky) (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from the Ryukyus, Japan and Myanmar. *Elytra*, Tokyo, 32: 115–118.
- 野村周平, 2004. 台湾産アリヅカムシの記録をめぐって. ハネカクシ談話会ニュース, (22): 6–7.
- Nomura, S., 2007. Taxonomical notes on the Japanese species of the genus *Batrisodes* Reitter, with a description of a new species from Yonagunijima Island of the Ryukyus (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae). *Entomological Review of Japan*, Osaka, 62: 51–61.
- 野村周平, 2007. やっぱり気になる Donckier 標本の由来. ハネカクシ談話会ニュース, (31): 1–3.
- Nomura, S., 2010. A new genus *Maajappia* and its new species of the subtribe Batrisina, Tribe Batrisini (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from Japan, with a note on the genus *Dendrolasiophilus*. *Elytra*, Tokyo, 38: 53–60.
- 野村周平, 2010. 石垣島で中瀬式ライトトラップ(NLT)によって採集されたアリヅカムシ. 甲虫ニュース, (172): 1–6.
- 野村周平, 2011. 沖縄島北部で中瀬式ライトトラップ (NLT) によって採集されたアリヅカムシ. さやばねニューシリーズ, (4): 23–27.
- Nomura, S., 2012. A new cavernicolous species of the tribe Batrisini (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae) from the Ryukyus, Southwest Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, (A)*, 38: 13–19.
- 野村周平, 2012. 西表島で中瀬式ライトトラップ (NLT) によって採集されたアリヅカムシ. さやばねニューシリーズ, (8): 30–34.
- Nomura, S., W. Sakchoowong and Idris Abd. Ghani, 2006. A redescription and new distributional records of the clavirine species *Anaclasiger simaticollis* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Elytra*, Tokyo, 34: 285–292.
- Sugaya, H., and S. Arai, 2003. Notes on the distribution of *Hirashimanymus schistodactyroides* (Coleoptera, Staphylinidae, Pselaphinae). *Elytra*, Tokyo, 31: 187–188.
- Sugaya, H., S. Nomura and D. Burckhardt, 2004. Revision of the East Asian *Plagiophorus hispidus* species group (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae: Cyathigerini). *Canadian Entomologists*, 136: 143–167.
- Tanabe, T., and T. Nakane, 1990. Three new species in the genus *Morana* (Coleoptera, Pselaphidae). *Japanese Journal of Entomology*, 58: 24–30.

(2012年10月6日受領, 2012年12月6日受理)

【短報】韓国におけるホソナガコメツキダマシの記録

ホソナガコメツキダマシ *Isorhipis foveata* Hisamatsu, 1955 は、日本では北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に広く分布することが知られる種である。日本以外の地域においては、八木・沢田 (2000) により極東ロシア (Khingán) から記録がされているが、朝鮮半島からの記録はなかった (Paek et al., 2010)。筆者らは、韓国で採集された本種を検査する機会を得たので、ここに記録しておきたい。

1♂, Mt. Hwa-Ya, Gapyeong-Gun, Gyeong-Gi-Do, Korea, 29. IV. 2012, Sang-Kyun Koh leg. (鈴木保管)。

Paek et al. (2010) によれば、韓国で生息が確認されているコメツキダマシ科は、アイヌツヤヒメコメツキダマシ *Xylophilus ainu* (Fleutiaux, 1923) 1種となっている。今回の記録を含めても、韓国のコメツキダマシはわずか2種であるので、今後の調査と解明が求められる。

引用文献

- Paek, M. K. et al., 2010. Checklist of Korean Insects. In Paek, M. K. & Cho, Y. K. (eds.): <Nature & Ecology> Academic Series, 2: 598 pp.
- 八木 剛・沢田佳久, 2000. ママエフコレクション目録. ユーラシア産双翅目, 鞘翅目標本. 兵庫県立人と自然の博物館収蔵資料目録, (4): 1–49.

(鈴木 互 法政大学二高等学校生物科)
(高 尚均 韓国ソウル特別市)